

QR Newsletter



第四紀通信

Vol.3 No.5, 1996



40周年記念名誉会員表彰式

Vol.3 No.5

September 30, 1996

名誉会員の推薦	2	国際研究集会のお知らせ	8
第四紀学会論文賞	4	総会議事録	9
第四紀路頭集の刊行について	5	幹事会議事録	13
研究委員会活動報告	6	会員消息	14

■ 名誉会員の推薦について

名誉会員候補者選考委員会（菊地隆男委員長，小田静夫・小泉武栄各委員）から，下記7名の名誉会員の推薦があり，8月23日の総会で決議されました。ここに，推薦理由も掲載し，なお一層の御指導をお願いする次第です。



名誉会員 井関弘太郎氏

推薦理由 井関弘太郎会員(1924年生)は，主として日本国内の沖積平野の地形発達に関する研究を行ってきました。とくに，沖積層基底礫層の形成をはじめ，濃尾平野など臨海沖積平野における沖積層の層序と，最終氷期および後氷期における気候変化・海面変動との関係を明らかにしてきました。また登呂遺跡をはじめ，多くの低地の遺跡調査に

かわかり，完新世の海面変動と遺跡立地の関係や，先史・有史遺跡の自然環境復原など，自然地理学と考古学の境界領域分野の発展に貢献されました。これらの成果は多くの論文，著書等を通じて紹介されています。また名古屋大学，駒沢大学をはじめいくつかの大学で研究指導され，第四紀学や地形学の後進を育ててきました。井関会員は，日本第四紀学会では1956-58年度，1962-74年度，1983-88年度の評議員を務められ，さらに1985-86年度には会長として，本学会の発展につくされてきました。第四紀学会の設立以前にも，日本学術会議地質学研究連絡委員会第四紀小委員会の委員を務められ，第四紀研究の発展のために尽力されました。以上のように，井関弘太郎会員の第四紀学に対する長年の研究上，研究組織上の功績はまことに顕著であり，ここに本会の名誉会員として推薦いたします。



名誉会員 亀井節夫氏

推薦理由 亀井節夫会員(1925年生)は，主として脊椎動物の古生物学に関する研究を行ってきました。とくに，長鼻類を中心とした第四紀の哺乳動物化石に関する研究と日本列島の第四系の生層序，第四紀生物地理についての研究に著しい功績があり，これらの成果は多くの論文，著書等を通じて公表されています。また京都大学，信州大学をはじめいくつかの大学で研究指導を行い，第四紀学や古生物学の後進を育ててきました。さらに現在は徳島県立博物館長もなされています。亀井会員は，日本第四紀学会では1965-76年度，1981-82年度，1985-92年度の評議員を，さらに1987-90年度には会長を務められ，本学会の発展につくされてきました。また，1964-91年には，日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員として，INQUAとの連絡に当たってこられました。

1987年には，INQUA国際評議員としてカナダで開催の第12回国際会議に出席されました。また1971年からは，アジア・太平洋地域層序委員会委員を務められるなど，第四紀研究の発展のために尽力されました。以上のように，亀井節夫会員の第四紀学に対する長年の研究上，研究組織上の功績はまことに顕著であり，ここに本会の名誉会員として推薦いたします。



名誉会員 木越邦彦氏

推薦理由 木越邦彦会員(1919年生)は，第四紀の研究対象に時間軸を与える，放射性炭素C-14による年代測定法に関する研究を行ってきました。とくに，大気中のC-14濃度の変動と地磁気強度の経年変化との関連に関する研究は重要です。また多数のC-14年代測定をなされ，その結果は，現在から約4万年前までに起こった自然現象および人類文化についての諸問題を解き明かす上で限らない指針を与えました。これらの成果は多くの論文，著書等を通じて紹介され，第四紀学の普及に貢献してきました。また学習院大学をはじめいくつかの大学で研究指導され，第四紀学や地球化学の後進を育ててきました。木越会員は，日本第四紀学会では1967-76年度，1979-88年度，1991-92年度の評議員として，さらに1983-84年度には会長を務められ，本学会の発展につくされてきました。1972-75年には，日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員として，第四紀研究の発展のために尽力されました。また日本地球化学会の会長を務めておられます。以上のように，木越邦彦会員の第四紀学に対する長年の研究上，研究組織上の功績はまことに顕著であり，ここに本会の名誉会員として推薦いたします。



名誉会員 松井 健氏

推薦理由 松井 健 会員(1925年生)は、第四紀における日本列島の土壌地理学的変遷について研究を進められ、土壌の生成・変化と第四紀学における地質、地形、気候、植生等の変遷との関連について明らかにされ、本邦の古土壌学研究に多大な指針を与えてきました。さらに、これらの成果は多くの論文、著書等を通じて紹介され、第四紀学の

普及に貢献しました。また、財団法人資源科学研究所、株式会社地域開発コンサルタンツ、社団法人環境情報科学センター、日本大学などで研究指導され、第四紀学や土壌学の後進を育ててきました。松井会員は、日本第四紀学会では1965-74年度、1977-80年度、1983-92年度の評議員を、さらに1965-68年度には幹事を、また1981-82年度には会長を務められ、本学会の発展につくされました。さらに、1963-71年には日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員を務められ、第四紀研究所設立の原案作成に加わり勧告を実現させるなど、第四紀研究の発展のために尽力されました。その間、1970年にはアメリカで開催のINQUA第7回大会に日本学術会議代表として派遣されています。以上のように、松井 健 会員の第四紀学に対する長年の研究上、研究組織上の功績はまことに顕著であり、ここに本会の名誉会員として推薦いたします。



名誉会員 山本荘毅氏

推薦理由 山本荘毅会員(1914年生)は、主として日本・中国・インドネシア・ハワイ等の火山山麓における地下水に関する研究を行ってきました。地下水と地形との関係や、地下水の年齢に関する同位体研究など、水文学ならびに第四紀学にとって、重要な課題に取り組んでこられました。これらの成果は多くの論文、著書等を通じて広く紹介されて

います。また、東京教育大学、筑波大学、立正大学をはじめいくつかの大学や農林省において研究指導され、第四紀学や水文学の後進を育ててきました。山本会員は、日本地理学会の会長のほか、日本第四紀学会では1965-74年度の評議員を、さらに1965-66年度には会長を務められ、本学会の発展につくされてきました。また、1966-78年には日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員として、第四紀研究の発展のために尽力されました。さらに、第8期～第10期(1970～78年)の日本学術会議会員として、INQUAに国費代表を送ることに努力され、また第四紀研究所設立の勧告も実現させました。以上のように、山本荘毅会員の第四紀学に対する長年の研究上、研究組織上の功績はまことに顕著であり、ここに本会の名誉会員として推薦いたします。



名誉会員 吉川虎雄氏

推薦理由 吉川虎雄会員(1922年生)は、日本・東アジア・ニュージーランド・南極における海岸地形・変動地形に関する研究を行ってきました。海成段丘の形成にかかわる地殻変動と海面変動の関係や、地震時とその間とは様式が異なる地殻変動による地形形成などを明らかにしました。また日本のような変動帯でかつ削剥の激しい地域での地

形変化のとらえかた「湿潤変動帯の地形学」を提唱しました。これらの成果は多くの論文、著書として著されました。また、東京大学、東京農業大学などにおいて研究指導され、第四紀学や地形学の後進を育ててきました。吉川会員は、日本地理学会会長のほか、日本第四紀学会では1959-74年度、1979-80年度の評議員、1959-64年度には幹事を、さらに1973-76年度には会長を務められ、本学会の発展につくされました。また、1960-66年には日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員として第四紀研究の発展のために尽力されました。INQUAにおいては、1977-87年の間第四紀海岸線委員会の太平洋・インド洋サブコミッション委員長を務め、1991年にはINQUA名誉会員に推挙されています。以上のように、吉川虎雄会員の第四紀学に対する長年の研究上、研究組織上の功績はまことに顕著であり、ここに本会の名誉会員として推薦いたします。



名誉会員 渡辺直経氏

推薦理由 渡辺直経会員(1919年生)は、先史人類学とくに理学的方法による年代決定および生活環境の復原に関する研究を行ってきました。例えば、遺跡遺物の磁気年代学、フィッシュトラック年代学、燐分析による遺跡遺構特性判定などの研究を、海外でもペルーの遺跡調査、ジャワ島の人類遺跡調査などを行ってきました。これらの成果は多くの論文、著書を通じて公表されています。また東京大学、帝京大学などにおいて研究

学会からのお知らせ

指導され、第四紀学や人類学の後進を育ててきました。渡辺会員は、日本人類学会の会長のほか、日本第四紀学会の1956-58年度、1965-72年度、1979-82年度の評議員、1965-68年度の幹事、1977-80年度の会長を務められ、本学会の発展につくされました。1982年には中国科学院第四紀研究委員会招待による中国視察団団長を務め、1976-81年には日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員長として第四紀研究の発展のために尽力されました。1977-79年には国際協力事業団「ジャワ第四紀地質調査」の日本側代表を務め、バンドンの第四紀地質研究所の設立にも貢献しました。1995年にはINQUA名誉会員に推挙されています。以上のように、渡辺直経会員の第四紀学に対する長年の研究上、研究組織上の功績はまことに顕著であり、ここに本会の名誉会員として推薦いたします。

■ 1996年 日本第四紀学会論文賞

論文賞受賞候補者選考委員会（江坂輝弥委員長、新井房夫・阪口 豊・杉村 新・中井信之各委員）から、1996年日本第四紀学会論文賞として、次の2編の論文の著者を選定した旨、報告がありました。授賞理由とともにここに掲載し、益々の研究の発展を期待します。



羽生淳子・ J.M.Savelle

『Construction, Use, and Abandonment of a Thule
Whale Bone House, Somerset Island, Arctic Canada』
「第四紀研究」, 第33巻第1号, 1-18, 1994

本論文「カナダ極北地域サマーセット島におけるテューレ文化期の鯨骨住居址の構築・使用・廃棄」（本文は英文）は、カナダ北極圏内、北緯72° 西経94°という極北の地にあるサマーセット島南部、島の東海岸 Pajs13遺跡で発見された住居跡を、1991年夏に発掘調査した成果をまとめたものである。この住居は、AD1000年代から1600年代にこの地方に繁栄したテューレ文化（Thule culture）期のもので、北極鯨の骨格とツンドラ地帯の芝土、石を主な材料として建設された鯨骨製の住居であった。この住居跡にはスリーピング・プラットフォームと思われる場所がなく、骨角器を製作した痕跡と思われる骨片が多量に出土している。著者はこの2点から、カリギとよばれる儀礼的な集会所であった可能性が高いとしている。著者は堆積層序を注意深くつぶさに観察しながら、本遺構の発掘調査を進めた。その結果、住居の構築時、利用時、住居の廃棄時、住居内の建築材として使用されていた鯨骨を再利用の目的で意図的に解体された時期、その後今日まで大きな攪乱も受けず堆積の続いた時期の5段階が認められた。また住居使用時から廃棄時の今日に至るまでの住居跡上部の堆積層序を綿密に観察し、その詳細な層序断面を示した報告書は今までにまったく皆無の状態にあり、この点も高く評価したい。この地方は、モンゴロイドの新大陸北部への拡散の研究上、人類学的にも重要であり、第四紀研究にも欠くことのできぬ問題の地域であるから、著者のさらなる研究に深い期待をよせたい。



吾妻 崇

『変動地形からみた津軽半島の地形発達史』
「第四紀研究」, 第34巻第2号, 75-89, 1995

津軽半島には、酸素同位体ステージで言えば7（20～22万年前）以降の段丘面が発達する。著者は火山灰等によってこれらを年代別と海成・河成の区別をし、その旧汀線高度の分布をしらべた。その結果、波状変形の特徴がわかり、また変形速度を他地域とくらべることができた。次に、活断層地形をくわしく追跡し、平面図と断面図で示した。これらより、東西圧縮による南北方向に走る逆断層とそれらの直上に形成された撓曲によって、山地が隆起していると結論した。山地西側の東上がり逆断層には、そのすぐ東にはほぼ平行に逆向きの西上がり逆断層ができています。これは東上がりの主断層に対して副次断層とみなされる。著者は主断層の変位速度が大きいところは、該当する副次断層の変位速度も大きい（主断層のそれより1桁ほど小さいが）という正の相関を見出した。これは本研究の成果の一つと考えられる。そもそも第四紀学会の論文賞は、奨励の意味合いが強く、ベテランのかたがたの論文は余り考慮されない。この論文の著者は、対象とされる筆頭著者の中で最年少であるが、この論文は、現在までに到達したネオテクトニクスの常識内で、すべきことをきちんとやりとげているという点で、評価される。著者はこの点で将来が楽しみな人物であり、今後の発展を期待したい。

■ 日本第四紀学会 40周年特別企画

『第四紀露頭集—日本のテフラ』 予約販売について

日本列島の自然を重要露頭から垣間みる絶好の集成。テフラ（火山灰）を含む露頭を中心に日本列島の274カ所の露頭を紹介。すでに失われた重要露頭、氷河・周氷河、泥炭層、サンゴ礁など古環境にかかわる露頭、活断層露頭、重要遺跡の露頭などさまざまな露頭を含む。1カ所が1～2ページにコンパクトにまとめられ、露頭の記録資料としてだけでなく、巡検の手引きとして必携。

◆A4版、総368ページ

◆定価3500円。ただし本年末までは予約割引 2500円。

◆申し込み方法：予約期間中に下の予約申込書に記入の上、FAXか郵便で申し込みください。

◆問い合わせ先：日本文理学部地球システム科学教室 遠藤 邦彦

〒156 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 TEL & FAX 03-3290-5451

国立歴史民俗博物館 辻 誠一郎

〒285 佐倉市城内町117 TEL 043-486-4240 FAX 043-486-4299

予 約 申 込 書

国立民俗博物館 辻 誠一郎 行 (FAX 043-486-4299)

日本第四紀学会 40周年特別企画

『第四紀露頭集—日本のテフラ』を _____ 部 予約申し込みます

お名前
送付先

TEL

FAX

■神戸大学理学部地球惑星科学科の教官の公募

1. 職名・人員： 助手 1名
2. 所 属： 地球科学大講座
3. 専門分野／内容： 地球ダイナミクス・地球テクトニクス／ 主として固体地球物理学的手法により、地震・火山活動を含む地球表層の変動現象や、深部を含む全地球規模の変動現象を研究する。
4. 応募条件： (1) 着任時に博士の学位を有する方
(2) 地震や地殻変動の観測にも意欲的な方
5. 着任時期： 決定後できるだけ早い時期
6. 提出書類： (1) 履歴書
(2) 研究業績目録（査読のある原著論文，査読のない原著論文，総説，著書に区分）
(3) これまでの研究経過と今後の教育・研究計画および抱負（2000字程度）
(4) 応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
(5) 主要論文の別刷またはコピー（5編以内）
7. 公募締切： 平成8年12月26日（必着）封筒には「助手応募書類」と朱書し，簡易書留で郵送。
8. その他： 着任後は地震学教育研究分野に属し，他分野のスタッフとも協力して広い視野から教育・研究・学科運営にあたっていただきます。
9. 書類提出先・問い合わせ先： 〒657 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学理学部地球惑星科学科 学科長 乙藤洋一郎
TEL: 078-803-0564 FAX: 078-803-0490 E-mail: otofuji@icluna.kobe-u.ac.jp

■研究委員会 1995年度活動報告

◎テフラ研究委員会（委員長：町田 洋）

今年度は、中部九州野外集会（1996.3.1-3 参加者は57名）を行った。

テーマ：阿蘇，九重，猪牟田，南九州諸火山の第四紀大規模テフラ

場所：熊本-阿蘇-九重-大分

案内者：小野見司，渡辺一徳，星住英夫，鎌田浩毅，町田 洋

概要：1)中九州カルデラ起源の大規模火砕流堆積物（Aso-1,2,3,4,耶馬溪，今市など）

2)阿蘇中央火口丘テフラから100万年前の猪牟田ピンクテフラまで（主要な広域テフラの観察）

3)火山活動史，海成段丘と堆積物編年に果たすテフラの意義

◎上・中・下部更新統境界に関する研究委員会（委員長：熊井久雄）

本研究委員会は北京INQUA大会で提案された中/下部更新統の模式地候補地である千葉県養老川セクションについて国内での検討を主とし，合わせて上/中部更新統模式地についても考えて行こうと組織された研究委員会である。当面の具体的課題としては，1991年の夏の千葉でのINQUA更新統の区分に関する小委員会の中/下部更新統境界に関する現地討論会を受けて，そのおりに宿題として提案された諸課題について国内研究者で研究分担して，総合して行こうというものである。昨年度の主な活動は，去る7月に養老川の中/下部更新統境界候補地点に関する研究討論会を開催した。参加者は約30名で，それまでの研究成果についての総合化に関する討論を行なった。合わせて，INQUA更新統の区分に関する小委員会委員長からの要請に答えて，ベルリン大会での中/下部更新統境界シンポジウム話題提供予定者間の発表内容の調整を行なった。8月のベルリンでのシンポジウムは半日間を千葉セクションに割り当てられ，岩相層序，生層序，古地磁気層序，年代層序等の詳しい発表を行なった。これに引き続いて，小委員会での議論となったが，この時には意見が一致せず継続審議となり，候補地毎に印刷物を各委員に配布して後日決定することになった。このことを受けて，本年3月にベルリンでの発表を基にした千葉セクションのプロポーザルを印刷し，各国の小委員会委員に発送した。後は，本年8月に北京で開催されるIGCの折りに参加した委員間で協議が行われるか，または，委員長の判断で次回の南アフリカでの委員会の協議に委ねられると考えられる。

◎INQUA/GLOCOPH対応研究委員会（委員長：門村 浩）

(1) 講演会の開催： 1)95.4.28. (於：東京大学)：福沢仁之(都立大)「海洋・湖沼堆積物に記録された気候変動-中国大陸の古水文環境と関連して-」。2)95.9.9. (於：東京大学)：青木賢人(東京大・院)「氷河地形の均衡線高度による中部山岳地方における最終氷期後半の古気候復元」，宮本真二(都立大・院)「若狭湾沿岸地域における最終間氷期以降の環境変動-福井県，中池見湿原堆積物の花粉分析-」。3)95.9.22. (於：東京大学)：Yahouda Enzel (Hebrew Univ., Israel)「Late Holocene climatic changes in the Mojave Desert」。「Variations in the frequency and magnitude of late Holocene large floods in the southwestern US: The paleoflood record」。4)96.3.26. (於：東京大学)：加藤茂弘「磁性粒子をトレーサーとした古水文環境の復元(予察)」。「エチオピア大地溝帯の大自然(スライド紹介)」

(2) データベースの作成： GLOCOPH本部(英サザンプトン大)で作成されている「古水文学データベース」に，日本のデータを登録するためのプロジェクトを開始した。この目的のために，文部省科学研究費(データベース)を門村・田村・平川・小元・齊藤・鹿島・小口が申請し，採択となった。

(3) サーキュラーの発行： 講演会の報告，GLOCOPHプロジェクトに関する内外のニュースを含むサーキュラーを3回発行し，委員に配布した。

(4) 活動報告の作成： 過去4年間の委員会の活動報告を門村・小口がまとめた(In: Yonekura, N.(ed.) National Report on Quaternary Research in Japan for the Inter-Congress Period 1991-1995)。

◎海岸線研究委員会（委員長：大村明雄）

(1) 1995年8月3-10日の第14回国際第四紀学連合(INQUA)で再編された1995-1999年INQUA海岸線委員会West Pacific小委員会(委員長，香港大学Dr.Wyss Yim)活動を支持するための日本人メンバー(21名)を組織し，同委員会に登録した。その一部が，IGBP Project 367 "Late Quaternary Coastal Records of Rapid Change: Application to Present and Future Conditions"に参加した。

(2) 1994年11月25日(当時，太田陽子委員長)開催の公開シンポジウム「日本列島における海岸環境の変遷-第四紀後半から現在まで-」で発表された研究成果を広く関心のある人々へ伝える単行本として発刊のための編集作業を終え，本学会1996年大会開催時に「日本の海岸線-最終間氷期から現在まで- (仮称)

を発刊する運びになった。

(3) 太田陽子前委員長を研究代表者、大村が研究分担者として参加する鹿児島喜界島における完新世隆起サンゴ礁ボーリング調査を”公開調査”として実施する。実施時期等の詳細が決定し次第、上記のWest Pacific小委員会の日本人メンバーに参会を呼びかける手筈を整えた。

(4) 上記のIGCP Project 367 およびProject 'Continental Shelves in the Quaternary'関係者が合同シンポジウムを来年度(1997年2月頃を予定しているが、詳細は未定)開催するための準備に入った。

◎ PAGES / PEP 対応研究委員会 (委員長: 小野有五)

(1) 活動経過: PAGESの各プロジェクトの代表者や関連する研究者を中心として研究委員会の組織をつくった。第1回の活動として、7月8-9日、東京(於: 日本大学)で「地球環境変化とヒマラヤ・チベット高原」というテーマのワークショップを開催した。また、このワークショップにあわせて研究委員会を開き、今後の活動方針を検討した。

(2) 今後の予定: 8月5-7日: PAGES/PEP特別セッションで委員会の活動を報告(於: IGC, 北京)

■ CEReS 国際シンポジウムの開催のお知らせ

千葉大学環境リモートセンシング研究センター(CEReS)では、下記の日程で国際シンポジウムを行い、乾燥・半乾燥地域における様々な環境問題においてリモートセンシングが果たす役割について幅広く討議を行いたいと考えています。奮ってご参加ください。

日時: 1997年1月29日(水)~31日(金)

会場: 千葉大学自然科学研究科大会議室

テーマ: 「乾燥・半乾燥地域の環境問題におけるリモートセンシングの役割」

一般発表論文の募集: 講演を頂ける方は10月10日までに事務局までお知らせください。E-mailで4ないし6ページ程度のアブストラクトを11月10日の締切予定でお送りください。

問合せ先: (事務局) 千葉大学環境リモートセンシング研究センター 近藤明彦

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33

Tel 043(290)3834 FAX 043(290)3857 E-mail: kondoh@rsirc.cr.chiba-u.ac.jp

■ 第33回 自然災害科学総合シンポジウムのお知らせ

日本自然災害学会学術講演会(11月7・8日、長崎大学)に先立ち、上記シンポジウムが開催されます。

日時: 11月6日(水)

場所: 長崎県農協会館 長崎市出島町1-20 TEL 0958-20-2280

1. 平成7年度突発災害等調査研究 (9:30~12:00)

- (1) 九重火山の水蒸気爆発の発生機構と火山活動推移の調査研究 京大理学部 小林 芳正
- (2) 1995年奄美大島近海の地震活動とその被害に関する調査研究 東大地震研 笠原順三
- (3) 1996年豪雪による広域雪氷災害の実体調査 新潟大積雪地域災害センター 小林俊一
- (4) 1996年豊浜トンネル崩落崖およびその周辺の地質調査 北大院理学研究科 渡辺輝夫
- (5) 1996年中国雲南省麗江地震とその被害に関する調査研究 京大 防災研 赤松 純平

2. シンポジウム「災害復興とリスクマネジメント~九州からのメッセージ」 (13:00~17:30)

(1) 九州における最近の自然災害

1. 南九州における集中豪雨災害 鹿児島大 理学部 岩松 暉
2. 風倒木による二次災害 九州大学工学部 平野 宗夫
3. 平成6-7年度渇水について (財)河川情報センター 池辺 豪

(2) 雲仙、普賢岳噴火災害の復興と噴火対策の教訓

1. 砂防計画と復興 建設省雲仙復興事務所 松井 宗広
2. 島原地域再生行動計画 長崎県理事「雲仙岳災害復興担当」田中敏寛
3. 植生の回復予測 長崎大学工学部 後藤恵之輔
4. 地震噴火津波における災害対策と法的制度 長崎県弁護士会 福岡博孝
5. 火山噴火と危機管理 九大島原地震火山観測所 太田一也

問い合わせ先: 〒816 福岡県春日市春日公園6-1 九州大学応用力学研究所

第33回自然災害科学総合シンポジウム実行委員長 植田 洋匡

TEL 092-583-7771 FAX 092-583-7774 E-mail ueda@riam.kyushu-u.ac.jp

研究集会のお知らせ

■ 日産科学財団公開シンポジウムのお知らせ

「火山噴火と環境影響」ー火山噴火が人類社会に与える恩恵と災害ー

会場：東京大手町 J Aホール（前農協ホール）

日時：1996年11月15日

基調講演（14：05-15：45）

「大噴火、その衝撃と感動」 岡田 弘（北海道大学有珠山火山観測所所長）

「自然の猛威と環境・風土」 伊藤 和明（NHK解説委員、文教大学教授）

パネル討論（16：00-17：15）

総合司会 伊藤 和明

パネラー 岡田 弘／三上 岳彦（東京都立大学教授）／槌田 禎子

（ジャーナリスト、テレビ長崎報道部）竹村 恵二（京都大学理学部助教授）

申し込み方法：参加費は無料（先着400名）。住所、氏名、年齢、職業を記載の上、
11月8日（金）までに下記宛に葉書、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。

宛先：（財）日産科学振興財団 〒104 東京都中央区銀座6-17-2 日産ビルネット2

TEL 03-3543-5597 FAX 03-3543-5598 E-mail at02-ns@t3.rim.or.jp

■ 猿橋賞受賞候補者及び研究助成候補者の推薦依頼について

女性科学者に明るい未来をの会より、下記候補者の推薦依頼がきています。自薦・他薦等ありましたら、規定の用紙（庶務幹事に請求下さい）に記入のうえ、11月10日までに、庶務幹事まで提出して下さい。

- ・猿橋賞 対象：自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者（50才未満）
表彰：本賞は賞状とし、副賞として賞金30万円をそえる
- ・研究助成 対象：海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者（40才未満）
助成金：1件10万円とし、年に数件

連絡先：〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部 齊藤享治

Tel.048-858-3195, Fax.048-858-3690, E-mail: kyosaito@sacs.sv.saitama-u.ac.jp

■ X VINQUA International Congress のお知らせ

1996年8月3日から11日、南アフリカ ダーバンで開催される第15回INQUA大会の第1回回状（1996年12月発行予定）の申し込みが届いています。メールリストへの登録を希望される方は下記へ申し込みください。

問い合わせ先：CONFERENCE AFRICA

PO Box 1722, Parklands, 2121, Johannesburg, South Africa

TEL +27-11-4478144 E-mail: eaucamp@geoscience.org.za

X VINQUA International Congress Application

TITLE _____ First Name _____ Surname _____

Designation _____ Company/Organization _____

Postal Address _____

TEL

FAX

E-mail

■総会議事録（1996年度）

日時：1996年8月23日（金）10:30～12:00
 場所：東京大学 山上会館 大会議室
 議長：池田安隆
 出席：出席正会員88名，委任状134通

報告事項

1. 1995年度事業報告

1-1. 庶務

(1) 会員動向（1996年7月31日現在）：正会員1839名（うち、学生会費会員110名，海外会員26名を含む），賛助会員16社（18口），団体購読会員97団体（101口）。逝去会員は，阿部進一郎，大西郁夫，大山桂，小倉乙郎，栗山芳之，橋本誠二，福原悦満，三輪崇夫，迎 康弘，山田 忍の10氏。

(2) 1995年度第2回評議員会を1996年1月20日に東京大学総合研究資料館で開催した。出席者25名，委任状9通。議長：増田富士雄。

(3) 以下のシンポジウム・講演会等の協賛および後援を行った：火山工学フォーラム—火山とつきあう—

（1995.9.26.土木学会） 海洋調査技術学会第7回研究成果発表会（1995.11.9-10.海洋調査技術学会） 基礎研究の振興と科学技術教育シンポジウム（1995.12.18.日本工学会・日本工学会教育協会） 第3回アジア学術会議—科学者フォーラム—（1996.3.25-28.日本学術会議） ワークショップ「地球環境変化とヒマラヤ・チベット山塊の役割」（1996.7.8-9. IGBP/PAGES, 日本大学文理学部自然科学研究所）

(4) 以下の研究委員会が活動した：

テフラ研究委員会（委員長：町田 洋），上・中・下部更新統境界に関する研究委員会（委員長：熊井久雄），INQUA/GLOCOPH対応研究委員会（委員長：門村 浩），海岸線研究委員会（委員長：大村明雄），PAGES-PEP対応研究委員会（委員長：小野有五）

(5) 論文賞受賞候補者選考委員会（江坂輝弥委員長，新井房夫，阪口豊，杉村新，中井信之各委員）の運営を担当した。

(6) 名誉会員候補者選考委員会（菊地隆男委員長，小田静夫，小泉武栄各委員）の運営を担当した。

(7) 1996年度文部省科学研究費学術刊行物補助金の申請を行った（採択されず）。

(8) 1997年度文部省科学研究費「自然史科学」審査員候補者を推薦した。

(9) 第17期日本学術会議会員選挙のための学術研究団体登録申請を行った。

(10) 地質科学関係学協会連絡協議会・地球環境科学関連学会協議会への対応を検討した。

1-2. 編集

(1) 「第四紀研究」34巻4号（原著論文3編，短報1編，資料1編，口絵1編，56頁），5号（原著論文2編，総説1編，資料1編，50頁），35巻1号（原著論文3編，短報1編，雑録，74頁），2号（原著論文3編，論文2編，雑録，78頁），3号（論文11編，138頁）を編集・刊行した。このうち35巻3号は，特集号「第四紀学と地震防災，平野の人類史—越後平野を例として—」（編集委員長：小林巖雄）である。35巻2号の論文2編は特集「湖沼堆積物—地球環境変動の”高精度検出計”—」（編集委員長：遠藤邦彦）である。

すでに受理している論文は原著論文4編と短報4編で，35巻4号と5号の一部に掲載する予定である。審査中の論文は15編（原著論文10編，短報4編，資料1編）である。なお，特集「湖沼堆積物—地球環境変動の”高精度検出計”—」は35巻4号にも掲載予定である。(2) 最近，第四紀研究への投稿論文が少ないことから，大会発表者に投稿の呼びかけ文書の送付などを行った。会員諸氏からの論文投稿をお願いする。(3) 編集委員会の充実のため編集委員会委員の増員を行った（植村善博，大場忠道，小野有五，加藤茂弘，鈴木毅彦，鈴木三男，立石雅昭，趙 哲済）。(4) 来期編集委員会への引き継ぎ事項として，a) 科研費（学術刊行物補助金）のゼロ査定に関連して，第四紀研究の充実を計ること，欧文論文投稿の奨め方などを検討した，b) 執筆要領（欧文要旨の語数，キャプションの和・英併記，引用文献），A4判化などを検討した。

1-3. 行事

(1) 1995年度大会（総会・講演会・シンポジウム・一般研究発表・巡検・懇親会）を新潟大学において1995年8月25～29日に開催した。講演会では「第四紀学と地震防災」をテーマに大木靖衛・遠藤秀典・三田村宗樹が講演を行った。シンポジウムのテーマは「平野の自然と人類史—越後平野を例として—」（話題提供8件，オーガナイザー：小林巖雄・小野 昭・立石雅昭・柴崎達雄），一般研究発表47件，ポスターセッション19件の講演があった。巡検は「新潟の古自然環境」をテーマに8月28～29両日に行われた（案内者：鈴木郁夫・長谷川美行・高野武男）。

(2) 博物館見学会を1995年10月22日，小田原市入生田の神奈川県立生命の星・地球博物館において，同館の協力を得て開催した。案内者：松島義章・平田大二・樽 創，参加者：30名。

(3) 日本第四紀学会講演会を1996年1月20日に東京大学総合研究資料館，講義室において開催した。講演者：織笠 昭，講演題名：「石器を測る—石器器体角度的の研究と石器文化論の新展開—」

(4) 地球惑星科学関連学会合同大会（1996年3月26～29日：大阪大学豊中キャンパスにおいて開催）で3月28日，日本第四紀学会の固有セッション「日本第四紀学会春季学術大会」（半日）を行った。一般研究発表12件，ポスターセッション3件の発表があった。

(5) 1996年日本第四紀学会大会・総会・創立40周年記念公開シンポジウムの準備を行った。1996年8月22～24日，東京大学（山上会館および安田講堂）において開催する。大会実行委員長：米倉伸之 日程：8月22日 一般研究発表・ポスターセッション；23日 一般研究発表・ポスターセッション・総会・懇親会；24日 創立40周年記念公開シンポジウム「最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開」（オーガナイザー：米倉伸之・辻 誠一郎・岡村道雄）

(6) 1996年度博物館見学会の企画を行った。見学対象博物館および日程は調整中。

1-4. 企画

(1) 第3回第四紀学会講習会（テーマ：テフロクロロジー）を1995年11月11～12日に神奈川県大磯丘陵・相模原・多摩丘陵周辺および東京都立大学で開催した。応募者41名，抽選により24名が参加。講師は鈴木毅彦会員（都立大）

学会報告

(2) 第四紀露頭集編集委員会(委員長:遠藤邦彦)は、日本第四紀学会創立40周年記念事業として、日本の重要な第四紀露頭の記録・活用を目的に「第四紀露頭集」を編集し、刊行へ準備を進めてきた。刊行は8月の大会前を予定。できるだけ安価で販売できるよう価格・販売方法を検討中である。

1-5. 会報

(1)「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol.2-5(1995年9月), Vol.2-6(95年11月), Vol.3-1(96年1月), Vol.3-2(96年3月), Vol.3-3(96年5月), Vol.3-4(96年7月)各16頁を刊行した。

(2) Vol.3-2から最終頁(裏表紙)に広告を掲載した。

(3) 文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバによる学協会の情報公開について対応を検討した。

1-6. 渉外

(1) 本会は、地球惑星科学関連学会に参加学会として登録しているが、合同大会の各セッションを一層活性化させ計画的に取り組むために、常設のプログラム委員会が設置されることになった。各学会からプログラム委員を推薦することが要請され、山崎晴雄会員を推薦した。

(2) 同じく本会は、自然史学会連合へ学会として参加している。文部省科学研究費補助金の時限付き分科細目の「自然史科学」が文部省で正式に採択となり、平成9年度から実現の運びとなったことを受け、その審査委員候補の選出方法に関する協議をおこなうため、自然史学会連合臨時総会が急きょ召集された。各学協会から代表者の出席が要請され、渉外担当幹事(小野 昭)が出席した。

2. 1995年度決算報告・会計監査報告

別添資料に基づき、杉山雄一会計幹事より決算報告があり引き続き松島義章会計監査より監査報告があった。

3. 研究委員会報告

本号の研究委員会1995年度活動報告を参照

4. 日本学術会議・第四紀研連報告

米倉伸之第四紀研連委員長より、次の活動報告があった。

(1) 平成9年度文部省科学研究費「時限付き分科細目」として、第4部から推薦の「自然史科学」が採択された。

(2) 地質科学関連学協会連絡協議会の準備会が平成8年7月10日に発足した。

(3) INQUAについては、太田陽子会員が副会長となっている。委員会のメンバーリストを第四紀通信3巻1号に開設されたホームページを3巻4号に掲載した。分担金は、約60万円に値上げされ、学術会議に支払いが認められた。

(4) 「アジア西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム」(平成9年10月予定)を準備し、日本学術振興会国際研究集会補助金の申請を行った。

(5) 日本学術会議では、第18期(平成12~15年)に向けて研究連絡委員会の見直しが進められている。学術会議会員を推薦できない第四紀研連のような課題別研連は、研連委員会から専門委員会への格下げといった動向がある。

(6) 国内の第四紀学の教育体制についての調査を継続中である。

審議事項

1. 1996年度事業計画

1-1. 庶務

(1) 内規集の整備を進める。

(2) 学会受け入れ図書 of 整理を進める。

(3) 1996年度において活動を希望する研究委員会を内定し評議員会に諮る(8月22日の評議員会で、テフラ研究委員会、INQUA/GLOCOPH対応研究委員会、海岸線研究委員会、PAGES-PEP対応研究委員会の継続、アジア太平洋層序研究委員会の新設が承認された)。

(4) 論文賞受賞候補者選考委員会を組織する。

(5) 選挙管理委員会を組織し、役員改選を行う。

(6) 1997年度文部省科学研究費学術刊行物補助金の申請を行う。

(7) 日本学術会議第17期会員の候補者と推薦人を評議員の投票で決める。

(8) 5年以上会費滞納者を除籍する。

1-2. 編集

(1) 「第四紀研究」35巻4号, 5号, 36巻1号, 2号, 3号を編集・刊行する。

(2) 1996年度大会シンポジウム「最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開」を中心とする特集号の編集委員会を設置し企画・編集にあたる。

(3) 第四紀研究への論文・欧文論文投稿が増加する方法を検討し、第四紀研究の内容の充実を計る。

(4) 第四紀研究のA4判化、執筆要領などを検討する。

1-3. 行事

(1) 1996年度日本第四紀学会大会を東京大学で開催する。

(2) 1997年1月頃、日本第四紀学会講演会を企画する。

(3) 1997年3月に名古屋大学で行われる地球惑星科学関連学会で日本第四紀学会固有セッション(シンポジウム及び一般研究発表)を開催するため、その準備を行う。

(4) 1997年度大会の準備を行う。大会は8月上旬、北海道大学において開催の予定(開催側責任者:小野有五)、シンポジウムのテーマは検討中。

(5) 第四紀研連、研究委員会、他学会・他研連、地域博物館等と協力して、ミニシンポジウム、講演会、見学会等を企画する。1997年2月頃、博物館見学会を行う予定。

1-4. 企画

(1) 40周年記念企画「第四紀露頭集」を刊行する。

(2) 第四紀学会講習会を企画する。

1-5. 会報

(1) 「第四紀通信」Vol.3-5/6(1996年9/11月), Vol.4-1,2,3,4(1997年1/3/5/7月)を刊行する。

(2) 文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバにおいて、本学会のホームページを開設し、積極的に本会の情報公開をすすめる。

1-6. 渉外

地球惑星科学関連学会・自然史学会連合との対応を図る。

2. 1996年度予算案

別添資料参照

以上の1996年度事業計画・予算案が承認された。

3. 名誉会員の推薦について

井関弘太郎、亀井節夫、木越邦彦、松井 健、山本荘毅、吉川虎雄、渡辺直経会員の名誉会員推薦が決議された。

資料(1) 1995年度収支決算報告書

(1995年8月1日~1996年7月31日)

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
会 費	13,133,600	13,327,250	193,650	
正 会 費	11,854,100	11,982,750		海外会費 174,750
団 体 助 会 費	959,500	1,024,500		過年度分 368,000
誌 補 助 金 収 入	1,500,000	1,730,338	230,338	要旨集売上, 購読料, 学会誌売上等
利 子 収 入	0	0	0	文部省科研費助成金
役 員 選 挙 積 立 金 取 崩	1,000,000	1,428,096	428,096	第四紀地図印税, 会員名簿広告料等
名 簿 積 立 金 取 崩	200,000	174,804	△25,196	
特 別 事 業 積 立 金 取 崩	0	0	0	
INQUA 積 立 金 取 崩	1,200,000	1,200,000	0	
INQUA 積 立 金 取 崩	0	0	0	
収 入 合 計	17,033,600	17,860,488	826,888	
前 期 繰 越 金	3,805,028	3,805,028	0	
合 計	20,838,628	21,665,516	826,888	

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
会 誌 発 行 費	7,250,000	8,218,367	△ 968,367	第四紀研究 5 冊 412p
印 刷 集 費	5,400,000	6,311,670		34 卷 3 号 ~ 35 卷 2 号
編 別 刷 費	1,700,000	1,650,584		
会 誌 発 送 費	150,000	256,113		
会 報 発 送 費	700,000	710,075	△ 10,075	
会 報 発 送 費	650,000	598,842	51,158	第四紀通信 6 通 96p
会 運 営 準 備 費	900,000	979,830	△ 79,830	2 卷 4 号 ~ 3 卷 3 号
大 巡 検 準 備 金	400,000	400,000	0	1996 年用
特 別 講 演 会 費	100,000	0	100,000	
予 稿 集 印 刷 費	300,000	172,386	127,614	
学 会 賞 費	400,000	423,000	△ 23,000	
第 四 紀 学 会 講 習 会 費	200,000	238,900	△ 38,900	
通 会 信 議 費	100,000	75,272	24,728	
旅 費 ・ 交 通 費	450,000	329,587	120,413	会費請求書発送郵税, 事務通信費等
印 刷 費	50,000	59,194	△ 9,194	
業 務 委 託 費	200,000	106,820	93,180	
特 別 刊 行 物 企 画 編 集 費	100,000	71,212	28,788	評議員会・総会資料印刷, 正-代等
INQUA 対 策 費	3,800,000	3,843,316	△ 43,316	資料(4)参照
役 員 選 挙 成 費	1,200,000	1,190,720	9,280	露頭集編集
名 簿 発 送 費	0	0	0	
特 別 事 業 積 立 金	0	0	0	
INQUA 対 策 積 立 金	600,000	118,078	△ 118,078	1995 年度版未払精算分
役 員 選 挙 費 積 立 金	0	426,480	173,520	
予 備 費 積 立 金	100,000	100,000	0	
名 簿 作 成 積 立 金	200,000	200,000	0	
研 究 委 員 会 助 成 費	0	0	0	
予 備 費	400,000	400,000	0	
予 備 費	200,000	200,000	0	40,000円×5件
予 備 費	100,000	139,336	△ 39,336	
予 備 費	0	0	0	
支 出 合 計	18,400,000	19,001,415	△ 601,415	
次 期 繰 越 金	2,438,628	2,664,101	△ 225,473	
合 計	20,838,628	21,665,516	△ 826,888	

資料(3) 1996年度予算案

(1996年8月1日~1997年7月31日)

収入の部

(単位:円)

科 目	1996年予算案	1995年決算額	1995年予算案	備 考
会 費	13,339,850	13,327,250	13,133,600	〔7,000円×1729名×95% +5,000円×110名×95% 10,000円×101口×95% 20,000円×18口 露頭集売上含む 文部省科研費助成金 広告料, 印税, 許諾抄録料等
〔正 会 費〕	12,020,350	11,982,750	11,854,100	
〔団 体 助 会 費〕	959,500	1,024,500	959,500	
〔賛 助 会 費〕	360,000	320,000	320,000	
誌 補 助 金 収 入	6,900,000	1,730,338	1,500,000	
利 子 収 入	0	0	0	
役 員 選 挙 積 立 金 取 崩 金 取 崩	1,000,000	1,428,096	1,000,000	
名 簿 積 立 金 取 崩	200,000	174,804	200,000	
特 別 事 業 積 立 金 取 崩	400,000	0	0	
INQUA 積 立 金 取 崩	0	0	0	
収 入 合 計	22,339,850	17,860,488	17,033,600	
前 期 繰 越 金	2,664,101	3,805,028	3,805,028	
合 計	25,003,951	21,665,516	20,838,628	

支出の部

(単位:円)

科 目	1996年予算案	1995年決算額	1995年予算案	備 考
会 誌 発 行 費	7,900,000	8,218,367	7,250,000	第四紀研究5冊(35-3~36-2)
〔印 刷 費〕	6,000,000	6,311,670	5,400,000	
〔編 集 費〕	1,700,000	1,650,584	1,700,000	第四紀通信6通(3-4~4-3)
〔別 刷 費〕	200,000	256,113	150,000	
会 誌 発 送 費	700,000	710,075	700,000	1997年用
会 報 発 送 費	650,000	598,842	650,000	
会 報 送 金	1,000,000	979,830	900,000	1997年用
大 会 運 営 準 備 金	400,000	400,000	400,000	
巡 検 準 備 金	100,000	0	100,000	評議員会・総会資料印刷, JE-代等 資料(5)参照
特 別 講 演 会 費	500,000	172,386	300,000	
予 稿 集 印 刷 費	800,000	423,000	400,000	露頭集印刷 露頭集編集
学 会 賞 費	250,000	238,900	200,000	
第 四 紀 学 会 講 習 会 費	100,000	75,272	100,000	会費請求書発送郵税, 事務通信費等
通 会 信 費	450,000	329,587	450,000	
旅 費 ・ 交 通 費	50,000	59,194	50,000	200,000
印 刷 費	200,000	106,820	200,000	
業 務 委 託 費	100,000	71,212	100,000	3,800,000
特 別 刊 行 物 印 刷 費	3,850,000	3,843,316	3,800,000	
特 別 刊 行 物 編 集 費	2,100,000	0	0	1,200,000
INQUA 対 策 費	2,200,000	1,190,720	1,200,000	
役 員 選 挙 費	0	0	0	600,000
名 簿 作 成 費	400,000	0	0	
名 簿 発 送 費	0	118,078	0	200,000
特 別 事 業 積 立 金	0	426,480	0	
INQUA 対 策 積 立 金	0	0	0	100,000
役 員 選 挙 費 積 立 金	100,000	100,000	100,000	
予 備 費 積 立 金	200,000	200,000	200,000	400,000
名 簿 作 成 積 立 金	0	0	0	
研 究 委 員 会 助 成 金	400,000	400,000	400,000	200,000
雑 予 備 費	200,000	200,000	200,000	
支 出 合 計	22,850,000	19,001,415	18,400,000	100,000
次 期 繰 越 金	100,000	139,336	100,000	
合 計	25,003,951	21,665,516	20,838,628	0

■ 名誉会員表彰式

名誉会員のこれまでの功勞に対し、鎮西清高会長から表彰状が授与された。

■ 日本第四紀学会論文賞授与式

江坂輝弥委員長(論文賞受賞候補者選考委員会)から、選考経過と結果の報告があった(受賞者、授賞理由等については、別途報告)、その後、鎮西清高会長から受賞者に賞状および副賞が授与された。

資料(2) 貸借対照表
加算・除算の文字は取除
(1996年7月31日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産		流動負債	
預け金	3,128,944	未払費用	1,496,447
小口現金	404,892	前受会費	8,602,000
立替金	8,342	積立金	5,150,000
普通預金	10,370	小計	15,248,447
定期預金	5,150,000	前期繰越金	3,805,028
金銭債権	7,210,000	当年度剰余金	△1,140,927
貸付債権	2,000,000	(次期繰越金)計	2,664,101
合 計	17,912,548	合 計	17,912,548

目 次 目 録

(1996年7月31日現在)

資 産 の 部 (単位:円)

科 目	備 考	金 額
預け金	(財)日本学会事務センター	3,128,944
小口現金	編集 212,114 会計 192,778	404,892
普通預金	三井信託/上野	10,370
定期預金	三井信託/上野	5,150,000
金銭債権	三井信託/上野	7,210,000
貸付債権	三井信託/上野	2,000,000
立 替 金	別刷代34-2, 34-3	8,342
合 計		17,912,548

負 債 の 部 (単位:円)

科 目	備 考	金 額
未払費用	会誌35-2 発送郵税 109,200 印刷代 1,127,330	1,496,447
前受会費	会報 3-3 発送郵税 160,110印刷代 99,807 1995年度会費	8,602,000
積立金	特別事業積立 500,000 INQUA 積立 800,000 役員選挙積立 200,000 名簿積立 400,000 予備費積立 3,250,000	5,150,000
合 計		15,248,447

資料(4) 日本第四紀学会1995年度業務委託費
(1995年8月1日～1996年7月31日)

I 会員業務費用	2,943,375
1. 会員管理費	180,000
2. 会費請求・学会誌等送付費用(11回)	2,258,850 (2035件×1,110円)
3. 新入会員登録手数料	42,000 (60件×700円)
4. 住所等変更手数料	145,800 (243件×600円)
5. 特別請求書発行手数料	158,800 (99件×1,200円)
6. 追加発送手数料	48,400 (40件×1,000円)
7. 多部発送手数料	1,525 (5件×305円)
8. 学会誌保管費用	108,000 (18,000円×6段)
II 受付業務費用	320,000
III 会計業務費用	468,000
消 費 税 3%	111,941
合 計	3,843,316

資料(5) 日本第四紀学会1996年度業務委託費見振り
(1996年8月1日～1997年7月31日)

I 会員業務費用	3,950,525
1. 会員管理費	180,000
2. 会費請求・学会誌等送付費用(11回)	2,297,700 (2070件×1,110円)
3. 新入会員登録手数料	45,500 (65件×700円)
4. 住所等変更手数料	108,000 (180件×600円)
5. 特別請求書発行手数料	159,800 (99件×1,200円)
6. 追加発送手数料	50,000 (50件×1000円)
7. 多部発送手数料	1,525 (5件×305円)
8. 学会誌保管費用	108,000 (18,000円×6段)
II 受付業務費用	320,000
III 会計業務費用	468,000
消 費 税 3%	117,155
合 計	3,850,680

■ 評議員会議事録 (1996年度第1回)

日時:1996年8月22日(木) 18:30～20:00

場所:東京大学 山上会館 会議室

出席者:鎮西清高(会長), 新井房夫, 池田安隆, 遠藤邦彦, 太田陽子, 大野正男, 大場忠道, 岡田篤正, 小野 昭, 加藤芳朗, 菊地隆男, 熊井久雄, 小池裕子, 小泉武栄, 斉藤享治, 坂上寛一, 杉山雄一, 鈴木三男, 辻 誠一郎, 陶野郁雄, 那須孝悌, 松島義章, 松下まり子, 真野勝友, 山崎晴雄, 吉川周作, 米倉伸之(以上, 評議員), 松井 健(会長経験者), 江坂輝弥(オブザーバー), 村上 聡, 山本麻由子(以上, 学会事務センター), 委任状8通, 議長:大場忠道

1. 報告事項

総会議事録(1996年度)にある報告事項の報告があった。

2. 審議事項

総会議事録にある審議事項が承認された。

3. そのほか

4. 学会論文賞の報告

江坂輝弥委員長(論文賞受賞候補者選考委員会)から、選考経過と結果の報告があった。

■ 第7回幹事会 議事録

日時:1996年8月5日(土) 13:00～17:15

場所:東京大学理学部5号館 地理学教室会議室 出席:鎮西清高(会長), 米倉伸之(副会長), 坂上寛一, 小野昭, 小池裕子, 杉山雄一, 山崎晴雄, 斉藤享治(以上, 幹事), 村上 聡, 山本麻由子(以上, 学会事務センター)

1. 庶務

(1)第12回E S R応用計測研究会(9月14日・15日, 於:奈良教育大学)およびIGCP国内委員会・シンポジウム実行委員会による「第四紀の海岸環境・大陸棚に関する国内シンポジウム」(97年2月15日, 於:神戸大学の予定)の後援学会となることを了承した。

(2)論文賞受賞候補者選考委員会の答申案が提出された。

(3)名誉会員候補者選考委員会の答申案が提出された。

(4)1995年度の研究委員会の活動報告が提出された。1996年度については, PAGES-PEP対応研究委員会, テフラ研究委員会, INQUA/GLOCOPH対応研究委員会, 海岸線研究委員会から継続希望が提出され, またアジア太平洋層序研究委員会の新設希望も提出され, すべて評議員会に諮ることとした。なお, 上・中・下部更新統境界に関する研究委員会は, 廃止の旨, 報告された。

(5)文部省科学研究費学術刊行物補助金は, 1996年度についても認められなかった。会長が8月5日に, 文部省の担当官と会談した際に説明のあった, 採択されなかったと推測される理由について, 会長から報告があった。刊行の目的・意義を明確にすること, 引用文献数を正確にとらえることなど, 1997年度申請書作成のときに留意することとした。

(6)1997年度文部省科学研究費補助金「自然史科学」の分科細目が認められたことに伴い, 自然史学会連合から審査員候補者の推薦が要請され, 候補者を推薦した。

(7)日本学術会議第17期会員の候補者と推薦人の選出方法について, 第16期と同様に評議員の投票で行うことを評議員会に提案することを了承した。

(8)地質科学関係学協会連絡協議会の準備会が7月10日開催され, 米倉副会長が出席した。世話人代表として佐藤正氏

会員消息

が、世話学会として日本地質学会が決定した。地球環境科学関連学会協議会の構想検討委員会が7月19日開催され、齊藤庶務幹事が出席した。趣旨が検討され、地球環境科学関連の諸学会が協力して、諸学会間の実りある交流を生み出す機関として本会を設ける。ことが確認された。両協議会ともに、正式に参加するかどうか今後、検討することとした。

2. 会計

(1)7月31日現在の試算表にもとづいた会計報告があった。収支ともに順調であったが、34巻3号の特集号でページが多かったため会誌発行費のうち印刷費の支出が予算額を上回り、旅費交通費の支出は予算額よりかなり少なかった。
(2)1996年度収支予算案を検討した。

3. 編集

編集委員会の充実のため編集委員会の増員を行うことが提案され了承された。

4. 行事

(1)1996年大会の準備状況は、ポスターを作成し355関係機関に配布し、講演要旨集1000部印刷中で、座長を依頼した。
(2)地球惑星関連学会連合の会合が7月16日、名古屋大学であったが、時間の都合がつかず欠席した。第四紀学会の固有セッション枠を現行1コマ(半日1会場)から2コマへ増枠するように文書で要望した。名古屋大の海津会員にシンポジウムの開催を依頼した。現在テーマ、講演者等を検討中である。
(3)博物館見学会を、1997年2月の土曜日ないし日曜日に、相模原市立博物館で実施する予定である。当日は、第四紀学会主催の博物館見学会と、博物館主催の相模野の第四紀に関する公開講演会(講演者:町田洋氏)を合同して実施する。第四紀学会会員以外にも広く参加を呼びかけたい。
(4)1998年の大会会場について、現在打診中である。

5. 企画

第四紀露頭集編集委員会から「第四紀露頭集」について、以下の提案があり承認された。印刷部数は3000部とする。定価は3500円(一般)、会員は3000円。申込受付、販売は主に辻企画幹事のところで行う。経費として、印刷費210万円、編集費120万円、執筆者経費、献本代、販売手数料を見込む必要がある。売り上げのうち50%は編集費にあて、印刷費、編集委員会としての編集費不足分(アルバイト代残)、執筆者還元編集費(80万円:1ページ当たり2500円、320ページ)、一部編集委員編集経費(20万円)、販売手数料、執筆者への献本、その2の積立金などにあてる。

6. 渉外

文部省科学研究費補助金の時限付き分科細目の「自然史科学」が文部省で正式に採択となり、平成9年度から実現の運びとなったことを受け、その審査委員候補の選出方法に関する協議を行うため、自然史学会連合臨時総会が8月1日に急遽召集され、小野渉外幹事が出席した。

7. 会報

(1)第四紀通信3巻4号に掲載した「通商産業省工業技術院地質調査所 選考採用者の募集」で応募締切7月31日が欠落し、関係各位に迷惑をかけてしまった。
(2)文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバでのホームページの開設・情報公開を進めるために、庶務・行事などと打ち合わせすることにした。

■ 第21回フィッショントラック研究会

開催のご案内

開催日： 1996年12月9日-11日

場所： 金沢市兼六荘

問い合わせ先：長谷部徳子

〒920-11金沢市角間町 金沢大・理・地球学教室

TEL.0762-64-5727 or 5723(事務室)

FAX.0762-64-5746

e-mail: hasebe@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp

または

(財)電力中央研究所 地質地盤部 伊藤久敏

〒270-11 千葉県我孫子市我孫子1646

TEL 0471-82-1181 ex) 8525

FAX 0471-83-3182

e-mail: ito_hisa@criepi.denken.or.jp

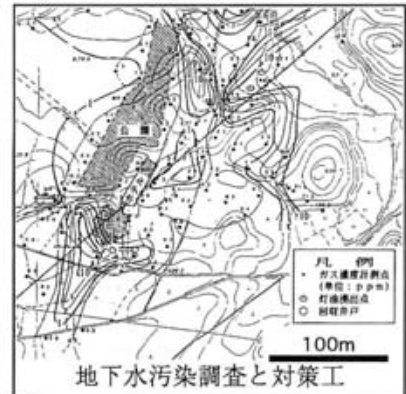
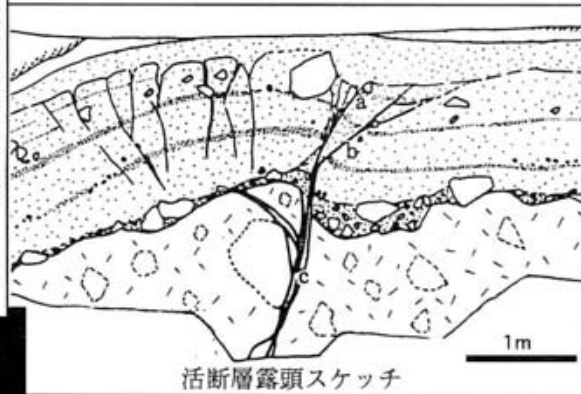
夏休み中の国際研究集会の参加報告や海外調査など
研究トピックスをお寄せ下さい。

第四紀通信事務局：九州大・院・比文 小池裕子

TEL & FAX 092-726-4847

E-mail: koikegsc@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

ミクロからマクロまで



主な業務

- ①活断層調査（地形地質調査・ボーリング調査・トレンチ調査・地質分析ほか）
- ②地盤地質調査（地表地質踏査・軟弱地盤地震応答解析・岩石薄片鑑定ほか）
- ③環境地質調査（地下水汚染調査・廃棄物最終処分場の環境調査ほか）
- ④埋蔵文化財調査（遺跡環境調査・遺物の各種分析・遺構保存調査ほか）
- ⑤地下流体（地下水・温泉等）の探査・さく井工事および影響調査



GEOSCIENCE

ジオサイエンス株式会社

東京本社：〒110 東京都台東区東上野6丁目-1-1

TEL:03-5828-1821 FAX:03-5828-1825

札幌支店：〒001 札幌市北区北15条西4丁目N R Kビル

TEL:011-717-0744 FAX:011-717-0746

地質分析センター：〒963 福島県郡山市豊田町4-12

TEL/FAX:0249-35-7722

地質調査の総合コンサルタント

物理探査

音波探査

弾性波探査

重力探査

電気探査

磁気探査

微小地震観測

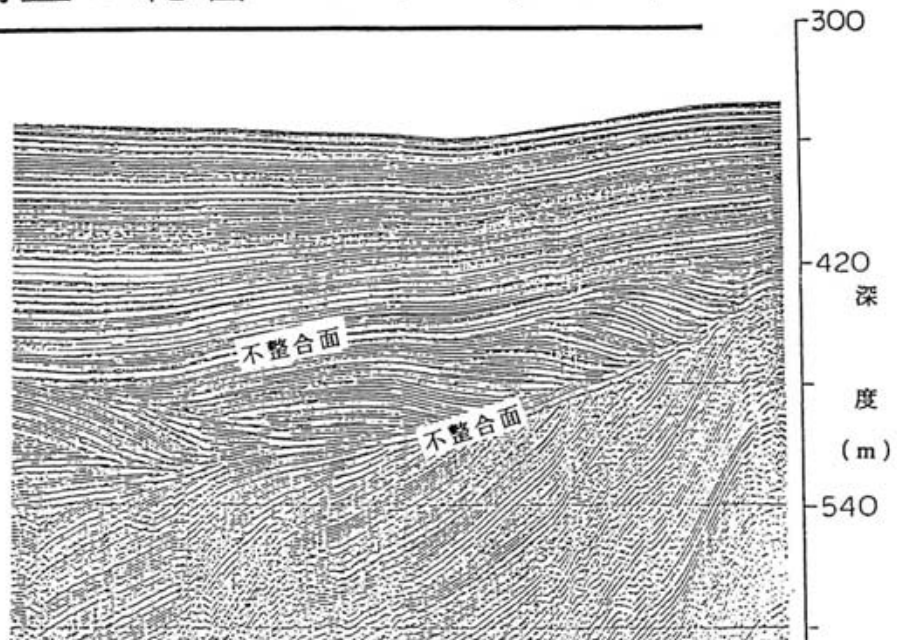
地質調査

地表地質調査

ボーリング調査

トレンチ調査

地質総合解析



〒140 東京都品川区北品川1-8-20
(第2林ビル)

TEL. 03 (3450) 9501 (代)
FAX. 03 (3450) 9504



総合地質調査株式会社